架け橋

若い才能と向き合う喜び ～ 国境を越えた人材育成

略歴：
慶應義塾大学医学部卒業、パスツール研究所留学、慶應義塾大学医学部、大阪大学蛋白質研究所、岡崎基礎生物学研究所、東京大学医科学研究所、理化学研究所で研究・教育に従事。カロリンスカ研究所、ソウル大学で外国人教授。
2019年より上海科技大学教授。

東京大学名誉教授、慶應義塾大学医学部客員教授、東京慈恵会医科大学客員教授



上海科技大学教授
御子柴 克彦
Katsuhiko Mikoshiba

私は東京大学医科学研究所および理化学研究所に在籍していた頃、日中医学協会のメンバーとして、中国からの留学生の選考に携わっていました。当時、私の研究室には多くの中国人留学生が在籍し、学位を取得して巣立っていきました。その中には、北京大学、上海交通大学、カロリンスカ研究所などで教授職に就き、活躍している人材もおり、誇らしく思っています。

理化学研究所を退職した後、思いがけず上海科技大学から教授職のオファーをいただきました。上海科技大学は創設13年ほどの新しい大学ですが、500床規模の病院を併設する医学部の設置を計画しています。病院・医学部の建物はすでに完成しており、2～3年以内に医学部が開設される予定です。学生の質も急速に向上しており、上海市内で上位3～4位に入るほどの評価を得ています。この年齢になって海外で生活し、仕事をすることになるとは思っていませんでしたが、すべては人との出会いが導いてくれたものだと感じています。中国に来てからも、多くの興味深い出会いがあり、その一部を紹介したいと思います。

現在、私の研究室には大学院生7名（まもなく1名増員予定）、学部生2名、スタッフ3名、ポスドク1名が所属し、研究と教育に取り組んでいます。これまでに修士課程3名、博士課程2名が学位を取得し、それぞれの場で研究を続けています。昨年11月に博士号を取得した学生A君は、私の古巣であるカロリンスカ研究所のポスドクとして採用され、研究を進めています。



研究室全員の集合写真

ある時、大学院生として研究室に入りたいという学生B君が訪ねてきました。彼は中国の大学を卒業後、自分のやりたいことを追求するためにオランダなどの企業に就職し、腕を磨いてきた人物です。山麓でお茶を点て、瞑想にふけるのが好きというユニークな性格で、私とも気が合い、博士号取得を目指して私の研究室に加わることになりました。非常に知的で、毎日を楽しみながら元気に研究に励んでいます。

現在、学部生でありながら日本の大学院で博士号

を取得したいという希望を持つ学生C君が、卒業研究のために私の研究室に来ています。AIを得意とする学生ですが、私が担当する大学院講義「分子細胞生物学を基盤とする神経科学」を受講してもらい、後日感想を聞きました。学部生としては知識が限られているにもかかわらず、新しい内容をスポンジのように吸収し、講義が終わる頃には大学院生レベルの理解に達していました。私の講義は、他の教員とは少し異なる方法で、質問を交えながら進めていますが、その「意図」まで理解していたことには驚かされました。このように優れた若い学生が育っていることは、大きな喜びです。

2年ほど前、大学院生向けの講義に参加していた学生D君が日本の大学院を志望し、推薦状を書いたところ、名古屋大学大学院医学研究科に合格しました。最近、日本で上原財団の授賞式があり、その会場で担当のX教授から「非常に良い学生です」と声をかけられ、嬉しく思ったことを覚えています。

かつて私の研究室で共に過ごした仲間は、現在さまざまな大学で活躍しています。今年3月、早稲田大学で教授を務める同門のY先生を訪問した際、20名ほどの学生の中に、非常に意欲的な中国人学生が2名いました。日本語も堪能で、研究への情熱が伝わる発表でした。1人は博士課程、もう1人は修士課程でしたが、将来について相談されたため、「迷わず博士課程に進み、Y先生の指導のもと世界をリードする研究をしなさい」と助言しました。後日、博士課程進学を決意したと聞き、嬉しく思いました。



春節のお祝いで、学生全員が参加した寸劇

熱意があれば、日本語も研究もここまで伸びるのかと感心しています。

中国の学生と接していると、一人ひとりが全く異なる背景や価値観を持っていることに気づきます。話をする際は、必ず1対1で時間をかけ、顔を見ながら対話するようにしています。週に1回、1〜2時間の面談を3回ほど続けると、次第に私の意図が伝わるようです。これは私の思い込みかもしれませんが、「学生のために一生懸命取り組んでいる」という気持ちが伝わるのだと思います。

私が多忙で誕生日を忘れていた時には、夕方にサプライズで大きなケーキを用意して全員で祝ってくれたり、その時々に季節の中国菓子をそっと差し入れてくれたりと、心温まる出来事も多くあります。

ある学生E君は、数日間の休暇を何度か願い出ていましたが、後になって、名古屋で日本人歌手のライブに参加したり、野沢温泉で避暑を楽しんだり、原宿を訪れたりしていたことが分かりました。しかし、そうした学生に限って最もハードワーカーであることが興味深いところです。私が常々「研究室に閉じこもらず、広く世界を見なさい」と言っていることを、学生が自主的に実践していると知り、嬉しくなります。

同じことを伝えても、50人いれば50通りの受け取り方があり、時には全く逆の解釈をする学生もいます。研究は科学の原理に基づくため、誰に対しても同じ教育をすればよいと思いがちですが、それは誤りです。学生はそれぞれ異なる性格を持ち、研究の進め方も異なります。良い点を見つけて伸ばしてあげることで、さらに成長する姿を最近よく目にし、大変喜ばしく感じています。

研究室のメンバーには、「同じ仲間として積極的にコミュニケーションをとり、日常や研究で分からないことは話し合うように」と繰り返し伝えています。良い点を指摘すると、本人のモチベーションが高まるようで、現在は非常に良い研究グループが形成されていると感じています。このような仲間の輪を、これからも広げていきたいと思っています。

纽带

与青年才俊同行不亦乐乎 ～跨越国境的人才教育

简历：
庆应义塾大学医学部毕业，曾留学巴斯德研究所，先后于庆应义塾大学医学部、大阪大学蛋白质研究所、冈崎基础生物学研究所、东京大学医科学研究所、理化学研究所从事研究与教育工作。曾任卡罗林斯卡研究所、首尔大学的外籍教授。自2019年起任上海科技大学教授。

东京大学名誉教授、庆应义塾大学医学部客座教授、东京慈惠会医科大学客座教授



上海科技大学教授
御子柴克彦
Katsuhiko Mikoshiba

我在东京大学医科学研究所和理化学研究所任职期间，作为日中医学协会的专家成员，参与了来自中国的留学生的评选工作。那时，我的研究室里也有许多中国留学生，他们取得学位后陆续走向社会。其中有些人如今已在北京大学、上海交通大学、卡罗林斯卡研究所等机构担任教授，表现卓越，这让我深感自豪。

从理化学研究所退休后，我意外地收到了来自上海科技大学的教授职位的邀请。上海科技大学是一所成立约 13 年的新兴大学，目前正计划设立医学院，同时附带具有 500 张床位的医院。医院和医学院的建筑已经完工，预计将在 2～3 年内正式开学。学生的素质也在迅速提升，现已跻身上海市内排名前 3～4 位的水平。

到了这个年纪还能在海外生活和工作，是我未曾预料的事情，但我深切地感到，这一切都是人与人之间的缘分所指引的。来到中国之后，我也遇到了许多有趣的人和事，接下来我想介绍其中的一部分。

目前，我的研究室有 7 名研究生（不久后将再增加 1 名）、2 名本科生、3 名工作人员以及 1 名博士后，大家共同投入研究与教育工作。到目前为止，已有 3 名硕士、2 名博士在此取得学位，并在各自的岗位上继续从事研究。去年 11 月取得博士学位的 A 同学，已被我曾经工作过的卡罗林斯卡研究所录用为博士后，正在开展进一步的研究。



研究室全体成员合影

有一次，一位 B 同学来访，希望能以研究生身份加入我的研究室。他从中国大学毕业后，为了追求自己真正想做的事情，曾在荷兰等企业工作，养精蓄锐。他有着独特的个性，喜欢在山麓泡茶、冥想，与我十分投缘，于是以取得博士学位为目标加入到了我的研究室。他非常聪明，每天都精神饱满地进行研究。

目前，还有一位本科生 C 同学在我的研究室进行毕业研究，他希望将来能到日本的大学院取得博士学位。他擅长 AI，我让他旁听了我负责的研究生课程《基于分子细胞生物学的神经科学》之后，向他询问了感想。尽管作为本科生知识有限，他却像海绵一样吸收新内容，课程结束时他的理解能力已经达到了研究生水平。我的课程与其他教师略有不同，会穿插提问来推进教学，而他甚至能领会到这些提问背后的

“意图”，这让我十分惊讶。看到如此优秀的年轻学生不断成长，是我最大的喜悦。

大约两年前，参加我的研究生讲义的 D 同学希望报考日本的大学院。我为他写了推荐信，此后他顺利地考入名古屋大学大学院医学研究科。最近，在日本举行的上原财团的颁奖典礼会场上，负责指导他的 X 教授对我说：“他是非常优秀的学生”，听到这样的话，我感到十分欣慰。

曾在我的研究室共同度过时光的伙伴们，如今活跃在各所大学。今年 3 月，我拜访了在早稻田大学担任教授的同门 Y 老师。在他指导的约 20 名学生中，有两名中国学生非常积极主动。他们的日语十分流利，研究报告也充满热情。其中一位是博士课程学生，另一位是硕士课程学生，他向我咨询未来发展方向，我便建议道：“不要犹豫，继续攻读博士课程，在 Y 老师的指导下开展引领世界的研究。”后来听说他已决定攻读博士，我感到非常高兴。看到一个人凭借热情与决心可以在日语和研究方面取得如此大的进步，令我深受感动。

与中国学生接触，我会深刻感受到每个人身上完全不同的背景与价值观。因此，在交流时，我一定会安排一对一的面谈，花时间面对面地沟通。每周一次、每次 1～2 小时的面谈，持续三次左右后，他们便会逐渐理解我的意图。这或许只是我的主观感受，但我相信，他们能够感受到我“为学生尽心尽力”的态度。

当我忙得忘记自己生日时，学生们会在傍晚准备一个大蛋糕，大家一起为我庆祝；平日里，他们也会悄悄送来应季的中国点心，诸如此类令人倍感温暖的事情很多。



研究室成员表演小品欢度春节

有一位学生 E 同学，曾多次申请几天的休假。后来我才知道，他去名古屋参加日本歌手的演唱会，到野泽温泉避暑，还去原宿逛街。然而，往往正是这样的学生，反而是研究室里最勤奋的人。得知他们主动实践我常说的“不要把自己关在研究室里，要放眼世界”，我感到非常欣慰。

即使传达同样的内容，50 个人也会有 50 种不同的理解，有时甚至会出现完全相反的解读。研究基于科学原理，人们容易以为对所有学生采用同样的教育方式就可以，但这是错误的。学生各自的性格迥然而异，研究的推进方式也不尽相同。最近，我常常看到学生们在我帮助他们发现并发挥长处后得以迅速成长，这让我非常高兴。

我不断地对研究室成员强调：“作为同伴，要积极沟通，日常生活或研究中不懂的地方要互相讨论。”当我指出他们的优点时，他们的动力似乎会明显得到增强。我感觉现在已经形成了一个非常优秀的研究团队，希望如此有活力的团队今后也能继续扩大。